

神戸昇天教会月報

〒652-0015 神戸市兵庫区下祇園町39番7号 神戸昇天教会

牧師 小南 晃

電話 (078) 361-4490

編集 「月報」編集委員

FAX (078) 361-4539

振替口座 01110-2-10517

2012年3月

大齋節



「内なる人」としては神の律法を喜んでいます、わたしの五体にはもう一つの報告があって、こころの法則と戦い、わたしを、五体の内にある罪の法則のとりこにしているのが分かります。わたしは何と惨めな人間なのでしょう。死に定められたこの体から、だれがわたしを救ってくれるでしょうか。
(ローマの信徒への手紙 7:22-24)

司祭 ミカエル 小南 晃

今、私たちは大齋節を迎えています。大齋節と言えば、克己としての「・・・断ち」を思い浮かべます。大好きな甘いお菓子を断って儉約し、それを克己献金として献げるとかです。これは大齋節に行われていた断食に由来するのかも知れません。40日間、その克己精神を保ち続けることができた時に、迎える復活日の喜びは一層大きいものかも知れません。

しかし大齋節は、「神の受け入れられるいけにえは砕けた魂です。あなたは砕けた悔いた心を軽しめられません。(詩51:17)」とあるように、今一度、自分の罪や弱さに気づき、新たな悔いる心を与えられることを恵みとする季節です。

ストレステスト

昨年の大齋節は、東日本大震災と共に始まりました。多くの犠牲者・被災者を前にして、この1年、皆様も無力さを痛感しながら祈って来られたのではと思います。未曾有の被害の中であって、福島第一原発事故の放射能汚染については、「安全神話」がもたらした災害であり、それは一種の傲慢さから生じた

ものです。想定外であったと言われるかもしれませんが、やはりこうなる危険性を指摘する声はあったのであり、それを無視する事によって生じた人災と言わざるを得ません。

この事故以降、原発のストレステストということが言われています。それはそれまでの想定を超えた危険に見舞われた時、何が起るか、どこに弱さがあるかを見るために、負荷(ストレス)を掛けたシミュレーションをするということです。これは弱さを発見するためのテストであって、もしこれが基準を甘くして「安全神話」をより補強するために用いられたら本末転倒したものとなるでしょう。

大齋節の克己

大齋節に断食し、克己の業を励むのは、言わば霊的生活にストレスをかけて、自分を見つめなおす事でしょう。こうした克己の業が、自分は己に打ち勝てる強い存在、正しい存在との思いを、より一層強めるとすれば、本来、目指している事と違うかも知れません。

冒頭の「内在する罪(ローマ7:7以下)」についての苦しい告白は、使

徒パウロのもので、彼は自分で「律法に関してはファリサイ派の一員(フィリピ3:6)」というほどに、自らを律法によって厳しく律して生きた人でした。多くのファリサイ派の人々が、結局は自分に守れる範囲の律法を自分に課して、それによって自分を義としていた中で、パウロは本当に律法に従って生きようとしたからこそ、どう頑張っても正しくは生き得ない、自分の弱さを認めざるを得なかったのです。

砕かれている故に

私たちもこの時に、克己に努めるべきです。そして克己の困難な自分をしっかり見つめた上で、その弱い自分を救ってくださる方、主イエス・キリストにより頼む信仰を強くしたいと思います。

その時には、パウロが冒頭の苦しい告白した後、突如、「わたしたちの主イエス・キリストを通して感謝いたします」と主によって救われている歓喜の叫びをあげているように、この私を愛し、赦し、救ってくださり、そして永遠の命への招きいれられた喜びをもって、復活日を迎えることになるでしょう。

そしてまた、人は砕かれている故に、悲しみを知っている故に、人に優しくなります。この大齋節に克己に努めると同時に、私たちは今一度、悲しむ者、苦しむ者、殊に東日本大震災による被災者・犠牲者遺族への愛と憐れみの心を深くされて、祈りを持って、この大齋節を過ごして参りましょう。

定例集会

日 午前7時 早朝聖餐式
 " 9時15分 教会学校
 " 10時30分 聖餐式・説教
 午後6時 夕の礼拝

火 午前10時30分 聖書研究会
 土 午前10時30分 教会掃除
 (ご奉仕をお願いします)